

3月12日 聖日礼拝

前奏

招詞 エレミヤ書33章1、2節

「地を造った主、それを形造って堅く立てた主、その名が主である方が言われる。『わたしを呼べ。そうすれば、わたしはあなたに答え、あなたが知らない理解を超えた大いなることを、あなたに告げよう。』」アーメン

賛美 聖歌392

主はぶどうの木（1回）

主の祈り 詩篇107篇1〜9節

交読

礼拝祈禱

使徒信条

聖書朗読 ビリビ人への手紙

1章27節〜2章12節

説教 仕える主

荻野泰弘牧師

賛美 聖歌104

献金 聖歌376

頌栄 聖歌376

祝禱

報告

後奏 感謝祈禱

■聖歌392「神はひとり子を」

①神はひとり子を たもうほどに 世びとを愛したもう 神は愛なり

※ああ神は愛なり けがれ果てし われさえ愛したもう 神は愛なり

②罪をば おかして 神にそむき 敵とう われさえ なお愛したもう

③罪ゆるさんために われに代わり イエス君十字架に 死にたまえり

④いざとく来たりて 神の愛に なが身をゆだねよ 救わるべし

■「主はぶどうの木」（※→★→※の順で歌う）

※主はぶどうの木 わたしは枝です いつも離れずに

主はぶどうの木 わたしは枝です 豊かな実を結ぶ

★みことばに留まり 愛に生きるなら

この世は知るでしょう 主の救いと 癒し

■主の祈り 天にましますわれらの父よ。ねがわくは 御名をあがめさせたまえ。御国をきたらせたまえ。御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ。われらの日用の糧を今日もあたえたまえ。われらに罪をおかすものを われらが 赦すごとく、われらの罪をも赦したまえ。われらを ころみにあわせず 悪より救いいだしたまえ。国と力と栄えとは かぎりなく なんじのものなればなり。アーメン

■交読 詩篇107篇1～9節

- 1 「主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。
その恵みはとこしえまで。」
- 2 主に贖われた者は そう言え。
主は彼らを敵の手から贖い（あがない）
- 3 国々から彼らを集められた。
東からも西からも 北からも南からも。
- 4 彼らは荒野（あらの）や荒れ地をさまよい
人が住む町への道を見出せなかった。
- 5 飢えと渇きによって
彼らのたましいは衰え果てた。
- 6 この苦しみのときに 彼らが主に向かって叫ぶと
主は彼らを苦悩から救い出された。
- 7 彼らをまっすぐな道に導き
人が住む町へ向かわせた。
- 8 主に感謝せよ。その恵みのゆえに。
人の子らへの奇しいみわざのゆえに。
- 9 まことに主は 渴いたたましいを満ち足らせ
飢えたたましいを良いもので満たされた。

■使徒信条 われは天地のつくりぬし、全能の父なる神を信ず。われはそのひとりご、われらの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤよりうまれ、ポンテオ・ピラトのもとにくるしみをうけ、十字架につけられ、死にてほうむられ、よみにくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天にのぼり、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこよりきたりて 生けるものと死にたるものとを さばきたまわん。われは聖霊を信ず。聖なる公同の教会、聖徒のまじわり、罪のゆるし、からだのよみがえり、とこしえのいのちを信ず。アーメン

■聖書朗読 ピリピ人への手紙 1章27節～2章12節

1章

- 27 ただキリストの福音にふさわしく生活しなさい。そうすれば、私が行ってあなたがたに会うにしても、離れているにしても、あなたがたについて、こう聞くことができるでしょう。あなたがたは霊を一つにして堅く立ち、福音の信仰のために心を一つにしてともに戦っていて、
- 28 どんなことがあっても、反対者たちに脅かされることはない、と。そのことは、彼らにとっては滅びのしるし、あなたがたにとっては救いのしるしです。それは神によることです。
- 29 あなたがたがキリストのために受けた恵みは、キリストを信じることでだけでなく、キリストのために苦しむことでもあるのです。
- 30 かつて私について見て、今また私について聞いているのと同じ苦闘を、あなたがたは経験しているのです。

2章

- 1 ですから、キリストにあって励ましがあ、愛の慰めがあり、御霊の交わりがあり、愛情とあわれみがあるなら、
- 2 あなたがたは同じ思いとなり、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、思いを一つにして、私の喜びを満たしてください。
- 3 何事も利己的な思いや虚栄からするのではなく、へりくだって、互いに人を自分よりすぐれた者と思いなさい。
- 4 それぞれ、自分のことだけでなく、ほかの人のことも顧みなさい。
- 5 キリスト・イエスのうちにあるこの思いを、あなたがたの間でも抱きなさい。
- 6 キリストは、神の御姿であられるのに、
神としてのあり方を捨てられないとは考えず、

- 7 ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、
人間と同じようになられました。
人としての姿をもって現れ、
- 8 自らを低くして、死にまで、
それも十字架の死にまで従われました。
- 9 それゆえ神は、この方を高く上げて、
すべての名にまさる名を与えられました。
- 10 それは、イエスの名によって、
天にあるもの、地にあるもの、
地の下にあるもののすべてが膝をかがめ、
- 11 すべての舌が
「イエス・キリストは主です」と告白して、
父なる神に栄光を帰するためです。
- 12 こういうわけですから、愛する者たち、あなたがたがいつも従順であ
ったように、私がともにいるときだけでなく、私がない今はなおさら
従順になり、恐れおののいて自分の救いを達成するよう努めなさい。

■聖歌104「なんという愛だろう」

- ①なんという愛だろう 主キリストが われらに残した おん足跡は
- ②どんな低い者も 愛しいたわり どんな罪とがをも きよめられた
- ③十字架についても 愛し続けて 彼らの赦しを求められた
- ④いやしいわれらも かかる愛に 満ちて ほかの人 なぐさめたい

■頌栄 聖歌376「父 御子 御霊の」

父・御子・みたまの おおみかみに とこしえかわらず
御栄えあれ 御栄えあれ アーメン